

# 厚岸町海事記念館



## 通信

2009.8.

No.12

### 文化財係 「文化財歴史講演会」を開催しました!!

6月27日(土)、本の森厚岸情報館を会場に文化財歴史講演会を開催しました。厚岸町には、国や北海道、厚岸町が指定した文化財が数多くあり、その他にも指定はされていませんが厚岸の歴史を語る貴重な文化財もあります。そこで、この講演会では、指定、未指定を問わず、文化財を多くの人たちに身近に感じてもらい、理解してもらおうと企画したものです。講師には、釧路短期大学教授で、現在刊行中の『新厚岸町史』の編集委員でもある佐藤宥紹氏をお迎えし、「文化財整備のハードとソフト～その形と意味～」と題してご講演いただきました。佐藤氏は、町内所在の国指定史跡や重要文化財などを取り上げ、その指定された理由や研究結果を交え、歴史上・学術上重要であり、他に代替することのできないものであるとし、文化財の保護・活用の方向性として、史跡整備を例に、ハード面(施設や景観の整備など)とソフト面(地域の人たちがどのように関わっていくのかなど)の両面から考えていかなければならない、その際、問われるのが家庭や地域社会がそれぞれの教育的機能を発揮できる「地域の教育力」であるとも指摘されました。

また、講演当日は町内にある国指定史跡「国泰寺跡」や昨年(平成20年)に修復工事が完了した国指定重要文化財「正行寺本堂」などを見学しました。参加したみなさんは、講演を聞き、直接、文化財に触れ、改めて私たちの町に伝わる歴史を再発見したのではないのでしょうか。



参加者で町内所在の文化財を見学  
(写真は町指定有形文化財「仏舎利塔」)

釧路短期大学教授 佐藤 宥紹 氏

## 【お知らせ】パネル展「おさかなセミナー」を開催中

ただいま海事記念館では、「おさかなセミナー 深海の世界をのぞく」と題しパネル展を開催中です(期間：**7月18日(土)～8月30日(日)**、入館料(210円【高校生以下無料】)のみ必要)。

私たちの町は、**練**や**鮭**・**鱒**、**牡蠣**など水産業、そしてそれを育む海と深く関わってきました。その一方で、海の底、深海の世界は、普段、陸で生活している私たちにとってまだまだ神秘の世界と言えるのではないのでしょうか。今回のパネル展では、道東域の深海の世界を最新の研究成果とともにわかりやすく解説しています。

ぜひ、この機会に、深海の世界をのぞいてみてはいかがでしょうか。知らない世界のぞけるかもしれませんよ。

なお、当パネル展は、(独)水産総合研究センター北海道区水産研究所の協力により開催しています。



## 文化財係 大黒島の自然を体感してきました

6月6日(土)に体験学習セミナー 天然記念物大黒島海鳥繁殖地観察会を実施しました。若竹岸壁を出港した参加者一行は、まず大黒島の外周を洋上から観察しながら、島の南端にあたる厚岸灯台の下に位置するトッカリ岩を屈指しました。途中、洋上から島東岸の岩場に打ち上げられたマッコウクジラの死骸を確認。体長約15mのマッコウクジラはかなりの迫力でした。トッカリ岩では、数頭のゼニガタアザラシを見ることができ、その中にはまだ子どもと思われる小さなゼニガタアザラシもちらほら。その後、島に上陸し、海事記念館の車塚洋学芸員から、大黒島の一部が海鳥繁殖地として国の天然記念物に指定され、全島が鳥獣保護区として保護されていること、また、島沿岸の東斜面と西斜面で景観が

違う理由やゼニガタアザラシやコシジロウミツバメの生態について解説を受けました。

今回の観察会では、ゼニガタアザラシの観察やオオセグロカモメの巣、大黒島の地形など、普段接することのできない自然のすばらしさを体感し、またその反面、他の動物に捕食されたコシジロウミツバメの死骸なども観察し、自然の厳しさも垣間見ることができたのではないのでしょうか。

大黒島で海岸散策



## 〈お知らせ〉「海の写真展」を開催しています !!

現在、海事記念館では、**7月17日(金)から8月9日(日)の期間**、写真愛好団体「映像集団光風」(代表:山崎國雄氏)の協力のもと、「海の写真展」を開催しています。コンブ漁やサンマ漁といった生活風景や海辺の草花や魚を食べるワシ、大黒島の磯に打ち上がった鯨の写真といった、自然の一コマを切り取った写真など、全24点の作品を展示しています。ぜひ、この機会に海に抱かれた町、厚岸を写真とおして感じていただければと思います。



## 文化財係 マンモスゾウの歯が札幌で公開されています

今、北海道開拓記念館(札幌市厚別区)では第65回特別展「北海道象化石展!」が開催中ですが、その会場に海事記念館所蔵のマンモスゾウの歯(左下顎第3大白歯)の化石が展示されています。

同展は、北海道で産出されたナウマンゾウやマンモスゾウを中心に象化石に関する最新の研究成果を展示したものです。会場では、昭和44年(1969)に発見され、当時大きなニュースとなった忠類村(現幕別町忠類)のナウマンゾウについて近年の再調査の結果などをもとに、その性別や年齢を探り、北海道に生息したナウマンゾウや日本では北海道だけに生息したマンモスゾウの生態に迫っています。ちなみに、北海道で最古のナウマンゾウの化石は忠類で出土した今から約12万年前(本州で最古のものは約35万年前)のものだそうです。海事記念館所蔵のマンモスゾウの歯は、年代測定の結果、約4万年前のものとなされ、平成4年(1992)年1月17日に羅臼沖南東約16km地点の水深70~80mの海底から、厚岸町の漁業者のスケソウダラの刺し網にからまり引き上げられました。なお、このマンモスゾウの歯のレプリカ(複製)は通常海事記念館でご覧いただけます。

同展は、**10月4日(日)まで**、北海道開拓記念館(札幌市厚別区)の特別展示室において開催しておりますので、お近くにお寄りの際は、ぜひご覧下さい。(北海道開拓記念館の開館時間:9時30分~16時30分、観覧料:一般500円、高校生・大学生170円、小・中学生80円)。

忠類ナウマンゾウ化石の産出状況(模型)  
(忠類ナウマン象記念館所蔵)



マンモスゾウの左下顎第3大白歯化石  
(厚岸町海事記念館所蔵)

## 文化財係 Doki ドキ 土器作りを満喫 !!

7月18日(土)の「Doki ドキ土器づくり」には、12名のみなさんが参加しました。海事記念館に集合した参加者は、まずバスに乗り、町指定の史跡「筑紫恋入口堅穴群」(時代は擦文時代)へ行き、海事記念館の熊崎農夫博学芸員からそこで生活していた人々の暮らしぶりなどの説明を受けました。その後、郷土館に移動した一行は、展示してある土器や石器を実際に手に取り、使われていた年代やどのように作られたかなどを学習しました。昼食後は真龍小学校工作室においていよいよ土器作りを体験。完成した土器はどれも力作ぞろい!! 2週間ほど自然乾燥させてから釜で焼くこととなりますが、今からできあがりを楽しみます。



真剣に土器を作る参加者のみなさん

(真龍小学校工作室にて)

## 文化財係 アッケシソウ日記

港町のアッケシソウ栽培地で、今、アッケシソウ以外の植物の生長が活発になっています。天候にもよりますが、5月からはほぼ毎週、多い時には週2回のペースで海水撒布や除草作業をおこなってきましたが、他の植物の成長を止めるまでには到りません。そのため、それらの植物が生育していない一部分でアッケシソウが成育しているという状況です。でも、中には頑張っていて大きくなっているアッケシソウもあり、なんとか秋には赤く色づき、種採取ができることを願いつつ、日々海水を撒いています。これからも引き続き作業を続け、いろいろと思案しながら頑張りたいと思います。



約12cmまで生長したアッケシソウ

(2009年7月26日、港町アッケシソウ栽培地にて)

### 編集後記

前号(11)で石造物調査のお知らせをしましたが、その後、ある方がわざわざ海事記念館まで訪ねて来て下さいました。せっかく、来ていただいたのに私が不在だったため、お帰りになったとのことで心苦しい限りです。今後、ご都合をお聞きしてお話を伺いたいと思っています。また、6月には尾幌の暁善寺で、7月には湾月町の国泰寺において相次いで馬頭観音の法要が

営まれ、見学させていただく機会を得ました。こちらの方も合わせて、「通信」の中で紹介できればと思っています。(車塚)

「厚岸町海事記念館通信」第12号 2009.8.発行  
【編集・発行】  
厚岸町海事記念館  
〒088-1151 北海道厚岸郡厚岸町真栄3丁目4番地  
Tel/Fax (0153)52-4040